

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 8 月 22 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100447
法人名	社会福祉法人広島光明学園
事業所名	グループホーム高陽荘
所在地	広島県広島市安佐北区深川8丁目36-7 (電話) 082-842-2266
自己評価作成日	平成 27 年 7 月 20 日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 27 年 8 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

隣接している施設との交流を持ち楽しみのある生活を送ることが出来る。日頃は入居者の持っている能力を活かし、自立した生活を送って頂けるケアを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none">● 静かな、自然豊かな、ゆったり快適な生活環境<ul style="list-style-type: none">・広島市郊外の自然に囲まれたロケーションとゆったり利用できる建物施設である。・周回できる広いベランダや広い窓から日常的に景観を楽しめる。● 地域、子どもとの交流<ul style="list-style-type: none">・併設のこども園との交流、ボランティアや地域の人々との多様な交流や協力関係がある。● 歴史、実績のある法人と経験抱負で明るい職員<ul style="list-style-type: none">・24時間のケアチェックシートと毎日のモニタリングシートで分かりやすいケアの実行と管理が行われている。・利用者情報を職員間でよく共有され、全職員が一丸となったケアが行われている。・職員も一緒に食卓を囲み、家庭的で楽しい生活環境を作っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「甘露の雨とこしえに」の理念のもと、困っている方を助け、平等に入居者と接し共有してケアを行っている。グループホームでは「明るく楽しく」を意識しながらケアを行っている。	グループホーム高陽荘は同地区に隣接された特別養護老人ホーム等と共に施設代表である園長代行の下で運営されている。毎月の職員会議では園長代行を中心とした全体会議と管理者を中心としたグループホームの会議等を通じて、職員は法人理念とグループホームの理念を理解・共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	公民館祭りや隣接の施設・幼稚園の行事への参加、交流をもちまたボランティアとの交流も行っている。また他事業者との交流を持ち、情報交換を行っている。	地元町内会とは園長代行が窓口になって、防災や行事などについて話し合い、協力し合う関係にある。毎年行っている夏祭りや高陽大学祭では近隣の方々にも参加いただいている。また、毎月様々なボランティアの方々に来訪いただいたり、中学生等の実習も受け入れている。その他、公民館や保育園にも出かけて交流するなど、幅広く地域とつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者の方と園外散歩などで近所の顔なじみを行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	会議で家族や包括の意見、アドバイスを参考にし改善、向上の努めている。	年6回(偶数月第3火曜日)会議を開き、利用者代表・家族代表・地域代表・地区担当民生委員・地域包括支援センター職員・区役所職員(時々)・消防署職員(訓練開催時)・法人の他事業所職員等に参加いただいている。グループホームの状況報告(利用状況・開催行事等)を行い、質問・意見・アドバイス等をいただいて、運営に役立てている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域や包括などお知らせや新聞を送付している。	運営推進会議に安佐北区介護保険課から年数回参加いただいております。直接の相談や情報交換を行っている。市と地域包括支援センター職員と連携して、利用者の自宅での生活を可能にしたこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会で身体拘束・抑制になる行為を確認し、見守りや所在確認を行うなど取り組んでいるが事故防止の為の施錠している箇所もある。	毎月行っている勉強内の中で「身体拘束をしないケア」についてもテーマに挙げて理解に努めている。職員を外部研修に参加させて事業者内でその内容を伝達研修させることもある。日頃、身体拘束にあたるのではないかと気づいたら、管理者から注意をしたり、話し合いを行って改善している。出入口や玄関は安全に考慮しつつ基本的に施錠しないケアを行っており、見守りと寄り添いのケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会でスタッフと話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度については勉強会などで勉強しているが現在は活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約などの際は十分説明している。面会時にご家族より疑問やしつもんがあった時はその都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月入居者のご様子を手紙で送付し、行事や写真・ホームページで掲載し更新している。	毎月、事業所の様子をまとめた「にこにこ新聞」と手紙（利用者の定期受診内容と様子をケアマネがまとめたもの）を郵送している。家族の面会時には必ず報告と要望を聞く。面会に来られない家族には電話をし、家族との連絡を保つようにしている。また、運営推進会議には利用者代表・家族代表に参加いただいている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	入居者の方に寄りよい生活を送って頂けるようにスタッフの意見を取り入れ毎月勉強会を行い反映している。	毎月行っている全体会議で園長代行と管理者は職員から意見を聞いている。管理者は毎月のケア会議、毎日の申し送り会議でも職員の意見を聞き、話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフの個々の個性を活かし、スタッフがやりがいのある就業が行えるようシフトなど考えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフ一人一人の能力を把握し、勉強会や話し合いを行い向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修や公民館祭り、行事など地域交流の場で意見交換やネットワーク作りなどサービスの質を向上するよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人と会話の中で思っていること感じていることに耳を傾け、安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会時や電話などでご家族からの要望や意見を聞き対応している。またご本人のご様子もお伝えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族のニーズを考え、適切な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフは入居者の目線で対応し、一緒に生活していると思って頂けるように努力している、		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人・ご家族の意向を聞き、出来る限りご家族と一緒に過ごせる様、外出・外泊を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人やご家族など定期的に面会に来られる方もおり、本人が慣れ親しんだ関係を維持できるよう配慮している。また外出もご家族の了承のもと行っている。	家族の面会は多い場合で月2回程度、少ない場合で年2回程度、まれに親戚や友人の面会もあり、歓迎している。利用者の希望で職員が馴染みの店や自宅へお連れすることもある。家族の協力でお墓参りや一時帰宅などをさせていただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係を把握し、良好な関係が継続できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご本人・ご家族の要望があれば支援できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者やご家族から話を聞き、希望や意向の把握に努めている。	当初より聞き取り等でまとめたアセスメント関係シートにより、利用者の状況を把握し、利用者本意のサービス、介護計画の作成を行っている。利用者の日頃の情報も職員間でよく伝達・共有されており、記録にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からや入居者とのコミュニケーションの中で分かったことを記録し、共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人に合った日常生活を把握し記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人やスタッフと話をしたり、ニーズを把握し、現状に即した計画を作成している。	利用者・家族の要望、医療情報、アセスメント情報を元に介護計画案を作成し、職員によるサービス担当者会議を開いて介護計画を作成し、家族・利用者の了承を得ている。毎日介護計画の実施状況を記録し、毎月職員の話合いによって評価をし、介護計画の継続可否を判定している。最長半年、または入院等必要時には介護計画を作成しなおしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に実施や抽須などを記録し、情報を共有して気づきや改善策を話し合い見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現状ではサービス以外に独自で考え、なるべく入居者にあったニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	隣接している施設やショッピングなどに出向き、楽しみのある生活が送られるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・ご家族の要望を聞き主治医との連携を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	契約時に医療支援について説明し、現在は利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。利用者は、毎月職員が定期受診にお連れし、毎週訪問看護師による健康チェックを受けている。希望により訪問歯科も利用いただいている。専門医受診は家族にお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪看時や併設施設の看護師に必要な応じて相談をし、助言を受けてその都度対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、定期的に様子を伺ったり、ご家族と連絡を取り、様子や情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合はご家族・ご本人と話し合い、出来ることをスタッフと共に取り組んでいる。	契約時に利用者・家族に事業所の方針を説明している。容態の変化や入院時には医師・家族・看護師・職員が話し合っ最善の対応を行っている。開所から3年余りの期間、事業所で看取りに至ったケースはまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会で急変時や応急処置の知識を取り入れている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に地域と避難訓練を行い応援・消火・避難活動を行っている。	隣接の特養と毎月避難訓練を行っている。年2回は消防署指導の下、運営推進会議のメンバー・地域の人も参加して訓練し、会議で反省会を行っている。地域では「地区ベル」が設置され、災害発生情報が共有できる。地元町内会とも災害時の協力関係について情報交換を行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の言葉使いや対応に十分配慮し、対応している。	毎年、勉強会で取り上げて随時学習を重ねている。普段も気づきがあれば、注意指導を行っている。個人情報ファイルは鍵付きキャビネットに保管して管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や意思や意見を尊重し、自分で決めて頂くよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースでやりたいことなど希望に沿って支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の自己決定により衣類など希望にそい、助言しながら支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	品数を増やしたり、行事食や楽しくなるような盛り付けをし、配膳や片付けを行っている。	食事は法人の厨房で利用者の事情や要望に合わせて手作りされている。事業所キッチンでは職員と利用者が食事をつぎ分けたり、配膳や片付けを行っている。食事は職員も一緒に利用者テーブルを囲み、会話を楽しみながら行っている。その他、行事食や誕生日会などではバーベキューやケーキ作りなどを行って楽しんでいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士によりバランスやカロリー計算を行い、水分量も毎日把握し、一人一人の状態がわかるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分で出来ない方などは声掛けや支援により口腔ケアを行っている。また自分でできる方にも確認している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行い、トイレへ行く習慣をつけている。おむつ外しも積極的に行っている。	利用者の排泄パターンをケアチェックシートに記録して把握し、声掛けや誘導で習慣化し、失敗が少なくなるよう支援を行っている。結果、オムツが不要に至るケースが出ている。夜間はポータブルトイレやオムツも利用して睡眠を優先させている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	主治医と相談したり、寒天やプルーン、ヨーグルトを食べたり運動を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	夜間はリスク管理のため、行っていない。入居者に入浴日以外に希望をされたときは入浴して頂いている。	週2回を基本に入浴していただいている。利用者の希望や事情に応じた入浴、入りたくない利用者には日や時間を変えたり、職員を交代するなど、楽しく入浴していただく工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望やリズムに合わせて入眠して頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の作用・副作用に留意し、本人の体調の変化に気をつけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の能力や楽しみを見出し、充実した生活が送られるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調や天候によって園外散歩を行い、車椅子や歩行が難しい方も用具などを活用し支援している。またショッピングも希望されれば人数を募り、行っている。	グループホームのフロアには周回できるベランダがあり、歩行練習やプランターの花の手入れなどを行っていただいている。また、園内や隣接のこども園への散歩にお連れすることもある。毎月隣接の特養で開かれる法話や絵画教室へ出向いたり、毎月の通院も外出の一環として楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本、預かりをしているが、本人が希望されたり、買い物時は所持し使えるようにしている。また小遣い程度なら持っておられる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望時には手紙やはがきが送られるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が把握出来るように案内を出し、また不快にならないように清潔面に留意し掃除を心がけている。	広い玄関アプローチから玄関に入るとイベントや集会に利用できる広い部屋がある。エレベーターで3階へ上がると左右に両ユニットがある。掃出窓のあるリビングは明るく広く清潔感があり、複数のテーブルが置かれ、思い思いに過ごせる。壁などには手作りの作品や写真が飾られている。ベランダに出るとフロアの外周を回れるベランダがあり、景色を見ながら手軽な散歩も楽しめる。浴室にも空の見える窓があり、冷暖房も完備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一緒に過ごす方もおられれば一人であるほうが良いと言われる方もおられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人・ご家族と相談し、本人に危険でない限りタンスや仏壇・写真などをおいている。	ベッド・タンス・袋戸棚が備え付けられ、利用者の馴染みの生活用品や装飾品が持ち込まれて部屋づくりがされている。居室にも掃き出し窓があり、明るくまた清潔に保たれている。部屋からの景色も良く、ベランダへ出ることできる。ベランダの手摺は高く安全である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は転倒リスクを最小限に工夫され安全に自立した生活が送られるよう配慮されている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="radio"/>	⑤ その他 ()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤ その他 ()
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="radio"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④ その他 ()
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="radio"/>	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤ その他 ()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="radio"/>	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="radio"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="radio"/>	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="radio"/>	⑤ その他 ()

2 目標達成計画

事業所 グループホーム高陽荘

作成日 平成 27年 8月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		自己評価の内容が前回と変わらず変化がみられない。	視点を変えて、考え方や思いを反映し、新しい発見をする。	多職種間で関わり、情報を密にしてより特色のある内容にする。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。